



たかはし しげき
高橋茂樹 議員

防災 常設型雨水排水 ポンプの設置を

「私の視点」

近年、豪雨による被害が全国各地で発生、矢川樋管付近でも浸水被害がある。町民の安心安全を確保するため、矢川樋管付近に常設型排水ポンプを設置すべきだ。

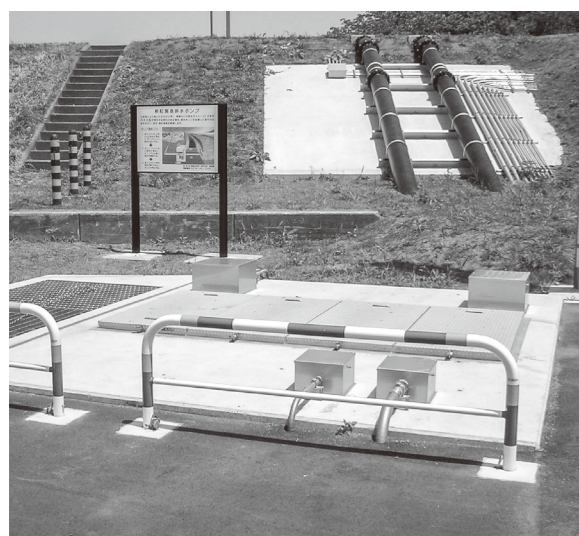
答弁（町長） 研究、検討していきたい

問 豪雨対策として、矢川樋管付近に常設型の雨水排水ポンプ施設の設置を行う考えはないか。

答（町長） 矢川樋管付近については、令和元年台風第19号の際に家屋の浸水被害があり、多数の被害が発生した。そのため、当該地の防災・減災対策として、監視カメラの設置及び周辺の町民が自由に使用するための土のう倉庫の整備、樋管手前の開渠部分からの越水を予防するための大型土のう設置などを行った。

加えて、烏川の増水により水路の水が停滞したときに、レンタルポンプを使用して強制的に排水するための仕組みを構築した。

これらの対策により、一定程度の被害を抑制することができると考えているが、先日、高崎市で設置した常設型の排水ポンプ施設も見学してきた。今後、これがどの程度効果的なのか、



烏川右岸に設置された高崎市新町地区排水施設
一定の水位を感知して雨水を排出できる

矢川樋管付近に設置するとしたら、どのくらいの規模が必要なのか等を研究、検討していきたい。

問 新たに作成した『玉村町総合防災マップ』は、玉村町の地勢に照らして、実態に即したものになったと考えているか。

答（町長） 新たな総合防災マップでは、従来の利根川・烏川に加えて、町内を流れる中小河川についても、ハザードマップの洪水浸水想定区域に反映させた。さらに、自宅の災害リスク及び避難の判断に活用するため、想定される浸水継続時間についても新たに掲載した。

また、町民が避難する際、注意が必要な危険箇所を認識してもらえよう、過去に浸水の被害があった場所についても掲載しており、本町の地勢に照らして実態に即したものになっていると考えている。



玉村町総合防災マップ

8050（はちまる・ごーまる）問題

問 8050問題の実態と対策は。

答（町長） 8050問題では、複合的な問題を抱えている場合が多く、町では「なんでも福祉相談」や「地域包括支援センター」等で支援につなげている。現時点で18件を把握しているが、今後、より積極的に地域と関わり、声を出せない方々を発掘し、包括的に支援していきたい。

* 8050（はちまる・ごーまる）問題…80歳代の高齢な親が、引きこもりや障がいなど、問題を抱えた50歳代の子の生活を支えている問題

こんな質問もしています
・老老介護について



ほりこしまゆこ
堀越真由子 議員

安全 児童の安全確保 の徹底を

「私の視点」

学校での子供の事故は「コピペ事故」としてNHKで特集が組まれていた。決して学校が子供の命の最後の場所になってはならないと思い、町の対策を伺った。

答弁（教育長） 事故等の予知・予測に努めている

問 日本スポーツ振興センターの記録によると、2005年度から2021年度までの間、学校管理下で亡くなった子供が1,614人、何らかの障害を負った子供が7,115人と記載がある。子供の事故には新しいものはなく「コピペ事故」と言われ、類似している。事故を防ぐため、玉村町では安全対策をどのようにしているか。

答（教育長） 事故等を予防する観点から、全国で過去に発生した事例を基に、その危険性や原因について分析された手引きを活用し、事故等の予知・予測に努めている。

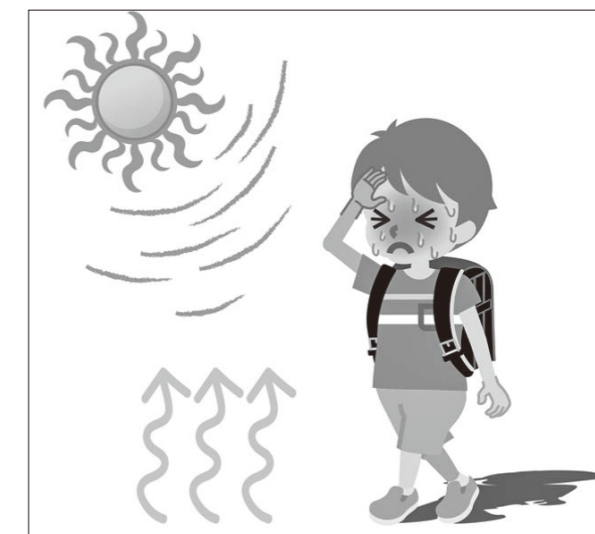
問 バスの便が悪いため、高校生は炎天下でも大雨の日でも自転車で長距離を移動しているが、登下校時にバスに乗れるよう取り組む考えはないか。

答（町長） 高校生は、町外の高校への通学者が多く、その通学先も様々であり、スクールバスを運行することは現実的に困難である。高校生などの運転免許取得前の世代も交通弱者と捉え、路線バスやたまりんなどの町内公共交通を最適化し、通学に使いやすい公共交通となるよう研究していく。

問 夏場の炎天下に2キロメートル以上、日陰のない道を帰る小学生がいる。途中でボーッと立ち尽くす子供や、真っ赤な顔でしゃがみ込み泣いている子供もいると保護者から聞かすが、町はどのように感じるか。

答（環境安全課長） スクールバスなどについて、今後、保護者にアンケート調査をし、費用対効

果も考えながら事故が起きないように最適な方法を見いだしていきたい。



夏の下校時、アスファルトの温度は60度を超えることも

町民に信頼される町政、環境づくり

問 愛知県新城市では若者の声を政策に取り入れる若者議会、犬山市では住民の5分間スピーチといった施策で、幅広く住民の声を取り入れている。玉村町でも政治にもっと関心を持ってもらえるよう、これらのような取組を実施する考えはないか。

答（町長） 子ども議会や県立女子大学生の玉村町活性化プランコンテストなどに取り組んできたが、全国の自治体での様々な取組等を研究し、より町民に信頼される行政に近づけていきたいと考える。